

## 肩甲骨及び硬膜外脂肪に認められた特発性無菌性化膿性 肉芽腫のトイプードルの1例

安積一平<sup>1)</sup> 西田英高<sup>1),2)†</sup> 田中美有<sup>2),3)</sup> 桑村 充<sup>3)</sup> 嶋崎 等<sup>2)</sup>  
田中利幸<sup>2)</sup> 山本卓矢<sup>4)</sup> 秋吉秀保<sup>1),2)</sup>



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/5/76\\_e75/\\_article-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/5/76_e75/_article-char/ja)

- 1) 大阪公立大学獣医学部獣医外科学教室 (〒598-8531 泉佐野市りんくう往来北1-58)
- 2) 大阪公立大学獣医学部附属獣医臨床センター (〒598-8531 泉佐野市りんくう往来北1-58)
- 3) 大阪公立大学獣医学部獣医病理学教室 (〒598-8531 泉佐野市りんくう往来北1-58)
- 4) 大阪府 開業 (ミズホ動物病院：〒590-0521 泉南市樽井2-16-5)

(2022年7月15日受付・2022年12月24日受理・2023年5月2日公開)

### 要 約

7歳齢の避妊雌のトイプードルが、右前肢の跛行を主訴に受診した。初診時のX線検査では右肩甲骨の骨増生及び皮質骨の不整が認められた。病変部位の組織の一部を採取したところ、非感染性の骨の炎症が疑われた。プレドニゾロン内服によって臨床徴候の改善が認められ、休薬によって血中C反応性蛋白(CRP)の高値及び両後肢不全麻痺が認められるようになった。核磁気共鳴画像(MRI)検査によって、第1-2胸椎、第4-5胸椎の硬膜外脂肪の炎症が認められ、特発性無菌性化膿性肉芽腫と診断した。免疫抑制量のプレドニゾロン及びシクロスポリンの内服によって、両後肢の神経徴候は改善し、血中CRPは正常範囲内まで低下し、MRI検査では病変は消失していた。本症例では、無菌性化膿性肉芽腫が肩甲骨及び硬膜外脂肪に発症したと考えられた。

——キーワード：特発性無菌性化膿性肉芽腫，後肢不全麻痺，トイプードル。

-----日獣会誌 76, e75～e80 (2023)